

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年11月12日
【四半期会計期間】	第8期第3四半期（自2019年7月1日 至2019年9月30日）
【会社名】	テックポイント・インク (Techpoint, Inc.)
【代表者の役職氏名】	最高経営責任者兼取締役社長 (Chief Executive Officer and President) 小里 文宏
【本店の所在の場所】	アメリカ合衆国、95131カリフォルニア州、サンノゼ市、ノースファースト ストリート2550、スイート550 (2550 N. First Street, #550, San Jose, CA 95131 US)
【代理人の氏名又は名称】	弁護士 鈴木 克昌
【代理人の住所又は所在地】	東京都千代田区丸の内2丁目6番1号 丸の内パークビルディング 森・濱田松本法律事務所
【電話番号】	(03) 6266-8563
【事務連絡者氏名】	弁護士 田井中 克之 弁護士 平川 諒太郎
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区丸の内2丁目6番1号 丸の内パークビルディング 森・濱田松本法律事務所
【電話番号】	(03) 6266-8563
【事務連絡者氏名】	弁護士 田井中 克之 弁護士 平川 諒太郎
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 東京都中央区日本橋兜町2番1号

- (注1) 別段の記載がある場合を除き、本書に記載の「円」は日本の通貨、「ドル」「米ドル」はアメリカ合衆国の通貨を指すものとします。
- (注2) 本書において便宜上記載されている日本円への換算は、別段の記載がある場合を除き、1ドル=107.92円(2019年9月30日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信直物売買相場の仲値)により計算されております。
- (注3) 本書中の表で計数が四捨五入されている場合、合計は計数の総和と必ずしも一致しないことがあります。
- (注4) 本書には、リスク及び不確実性を伴う将来の見通しに関する記述が含まれております。将来の見通しに関する記述は、「～うる」、「可能性がある」、「予定である」、「意図する」、「～であろう」、「～かもしれない」、「場合がある」、「～と思われる」、「予想する」、「～と考える」、「見積もっている」、「予測する」、「潜在的な」、「計画する」などの表現を使用することがあります。これらの記述は、将来の事由に関する当社の現時点における見解を反映しており、また現時点における仮定に基づいており、リスク及び不確実性を伴います。
- (注5) 本書において、以下の本書で使用する用語その他関連する用語は、文脈上別意に解することが適切な場合を除き、それぞれ以下の意味を有します。

HD	High Definitionの略。動画像の画質や解像度の水準が高いこと。SDと比較して、小さな対象物も高精細に表示できる。
HD-SDI	映像信号の伝送規格の1つ。SDIはSerial Digital Interfaceの略。HD画質の映像信号を、同軸ケーブルなどを使ってデジタル方式で伝送する。
HD 伝送ビデオ・インターフェース (HD- TVI)	当社が独自開発した、映像信号の伝送規格。TVI はTransport Video Interfaceの略。HD画質の映像信号を、同軸ケーブルやイーサネット用ケーブルを使ってアナログ方式で伝送する。
アナログ・デジタル混載半導体	同一の半導体集積回路上に、アナログ信号を扱う領域とデジタル信号を扱う領域が混載された半導体。「ミックスドシグナル半導体」とも呼ばれる。
DVR	Digital Video Recorderの略。映像信号をデジタル記録する装置。
SD	Standard Definitionの略。動画像の画質や解像度の水準が標準的であること。一般には720×480画素などの動画像を指す。
同軸ケーブル	映像信号の伝送や機器内配線などに幅広く用いられている電線の一種。特に、監視カメラ用のケーブルとして広く用いられている。
HDアナログ伝送	HD画質の映像信号を、同軸ケーブルやイーサネット用ケーブルを使ってアナログ方式で伝送する手法。
1080Pフルハイビジョン	フルハイビジョン(フルHD)とは、HD画質の映像信号の方式の1つで、画素数が1920×1080のものを指す。このうち、1080Pは、信号を間引くことなくきめ細かく表示していることを示す(PはProgressiveを意味し、信号を間引いて表示するI(Interlaced)との対比で用いられる)。
ファブレス・ビジネスモデル	自社工場を保有せず、外部製造専門会社に製造を委託するビジネスモデル。

ウエーハー	単結晶シリコンなど半導体の材料を、円形の薄い板状に切り出したもの。元となるシリコンの円筒状の塊（インゴット）を薄くスライスし、表面研磨や洗浄などの工程を経て完成する。
半導体ファウンダリーハウス	半導体の委託製造事業者。
半導体アSEMBリーハウス	半導体の委託組み立て事業者。半導体チップの外装パッケージ組み立て作業などを担当する。
半導体テストハウス	半導体の機能のテストを行う委託事業者。
CMOSイメージセンサー	各種カメラで広く使われている固体撮像素子の一種で、フォトダイオードに蓄積した電荷を、それぞれの画素で電圧に変換し増幅したうえで読み出す。CMOS型固体撮像素子（CMOSはComplementary Metal Oxide Semiconductorの略）とも呼ばれる。従来一般的だったCCD型（CCDはCharge-Coupled Deviceの略）に比較して、消費電力が小さく、小型化できるという特徴がある。
イメージシグナルプロセッサ（ISP）	各種イメージセンサーから信号を取り込み、色や輝度の補正、ノイズ（雑音）の除去などを処理する半導体。映像信号処理プロセッサとも呼ばれる。
映像送信用半導体（Tx）	各種イメージセンサーが取得した映像信号をケーブルなどで伝送する際に用いる送信用半導体。TxはTransmitterの略。カメラなどに組み込まれる。
映像受信用半導体（Rx）	同軸ケーブルなどにより伝送されてきた映像信号を受信する際に用いる半導体。RxはReceiverの略。DVRなどに組み込まれる。
SoC（System on a Chip）	半導体チップ上に複数の機能要素を設け、組み合わせることで全体としてまとまった働きをする半導体。以前はシステムLSIとも呼ばれた。
フォトマスク	シリコンウエーハー上に半導体の回路配線を形成する際に用いる原版。各種露光技術と組み合わせて利用される。
テープアウト	半導体設計が完了し、半導体ファウンダリーハウスに製造依頼をした時点を指す。日本では出図とも呼ばれる。
デザイン・ウィン	取引先又は取引先候補の製品設計プロジェクトに部品などが採用されること。
微細化製造プロセス	半導体の回路線幅を小さくすることにより、単位面積あたりのトランジスタ素子数を増やし、集積度を高める製造プロセス。
2K	HD画質の映像信号の方式の1つで、画素数がフルHDの2倍となる、2560×1440程度のものを指す。
4K	HD画質の映像信号の方式の1つで、画素数がフルHDの4倍となる、3840×2160画素級のものを指す。映画撮影などで普及が広がっている。

アナログデザイン	半導体開発において、アナログ信号を扱う領域の回路設計を指す。デジタル信号を扱う領域の回路設計に比較して自由度が高く、設計次第で回路規模や消費電力が大きく異なってくるため、半導体製品の差異化要素となる。
ミックスシグナルデジタル処理	アナログ信号とデジタル信号の両方をデジタル処理すること。
ビデオ・デコーディング	アナログのビデオ信号をデジタルデータに変換したり、符号化された映像データを復号したりする処理。
車載用LCDコントローラー	電子ミラーなど各種車載液晶ディスプレイ向け半導体。

第一部【企業情報】

第1【本国における法制等の概要】

当四半期会計期間において、当社の属する国・州等における会社制度、当社の定款等に規定する制度、外国為替管理制度及び課税上の取扱いに異動はありませんでした。

第2【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

下記に示す過去の要約連結財務情報の抜粋は、本書に記載されている「第3 事業の状況 2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」及び「第5 経理の状況」の要約連結財務書類、関連注記、その他の財務情報と併せてお読みください。本節の要約連結財務情報の抜粋は、要約連結財務書類の代替になるものではないため、本書に記載されている要約連結財務書類及び関連注記をご参照いただく必要があります。

(単位：株式数及び1株当たり金額を除き、千米ドル(千円))

	9月30日に終了の3か月		9月30日に終了の9か月		連結会計年 度
	2019年	2018年	2019年	2018年	2018年
連結損益計算書の情報：					
売上高	9,613 (1,037,435)	8,667 (935,343)	21,809 (2,353,627)	22,190 (2,394,745)	31,098 (3,356,096)
売上原価 ⁽¹⁾	4,874 (526,002)	4,220 (455,423)	10,862 (1,172,227)	10,513 (1,134,563)	15,316 (1,652,903)
売上総利益	4,739 (511,433)	4,447 (479,920)	10,947 (1,181,400)	11,677 (1,260,182)	15,782 (1,703,193)
営業費用： ⁽¹⁾					
研究開発費	1,686 (181,953)	1,704 (183,896)	4,762 (513,915)	5,493 (592,805)	7,331 (791,162)
販売費及び一般管理費	1,442 (155,621)	1,899 (204,940)	4,939 (533,017)	5,092 (549,528)	6,636 (716,156)
営業費用合計	3,128 (337,574)	3,603 (388,836)	9,701 (1,046,932)	10,585 (1,142,333)	13,967 (1,507,318)
営業利益	1,611 (173,859)	844 (91,084)	1,246 (134,468)	1,092 (117,849)	1,815 (195,875)
その他の収益(費用)	2 (216)	94 (10,144)	41 (4,425)	130 (14,029)	229 (24,713)
税引前当期(四半期)純利益	1,613 (174,075)	750 (80,940)	1,287 (138,893)	1,222 (131,878)	2,044 (220,588)
法人税等	156 (16,836)	186 (20,073)	113 (12,195)	16 (1,727)	159 (17,159)
当期(四半期)純利益	1,457 (157,239)	564 (60,867)	1,174 (126,698)	1,238 (133,605)	1,885 (203,429)
1株当たり当期(四半期)純利益(米ドル (円))：					
基本的 ⁽²⁾	0.08 (9)	0.03 (3)	0.07 (8)	0.07 (8)	0.11 (12)
希薄化後 ⁽³⁾	0.08 (9)	0.03 (3)	0.07 (8)	0.07 (8)	0.10 (11)
1株当たり当期(四半期)純利益を計算す る際の加重平均株式数：					
基本的	17,316,172	17,045,689	17,239,544	16,936,898	16,982,648
希薄化後	17,899,140	17,922,635	17,850,360	18,039,404	17,991,131
その他の包括利益	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
当期(四半期)包括利益	1,457 (157,239)	564 (60,867)	1,174 (126,698)	1,238 (133,605)	1,885 (203,429)

(単位：株式数及び1株当たり金額を除き、千米ドル(千円))

	9月30日に終了の9か月		連結会計年度
	2019年	2018年	2018年
連結キャッシュ・フロー計算書の情報：			
営業活動によるキャッシュ・フロー(純額)	2,260 (243,899)	3,276 (353,546)	4,440 (479,165)
投資活動によるキャッシュ・フロー(純額)	267 (28,815)	276 (29,786)	376 (40,578)
財務活動によるキャッシュ・フロー(純額)	71 (7,663)	310 (33,455)	341 (36,801)

(1) 以下の株式報酬費用を含む(単位：千米ドル(千円)):

	9月30日終了の3か月		9月30日終了の9か月		連結会計年度
	2019年	2018年	2019年	2018年	2018年
売上原価	29 (3,130)	28 (3,022)	83 (8,957)	46 (4,964)	68 (7,339)
研究開発費	124 (13,382)	111 (11,979)	370 (39,930)	231 (24,930)	355 (38,312)
販売費及び一般管理費	184 (19,857)	412 (44,463)	568 (61,299)	737 (79,537)	941 (101,552)
合計	337 (36,369)	551 (59,464)	1,021 (110,186)	1,014 (109,431)	1,364 (147,203)

(2) 基本的1株当たり当期(四半期)純利益とは、以下のような計算式で計算されます。

$$\text{基本的1株当たりの当期(四半期)純利益} = \frac{\text{普通株主に帰属する当期(四半期)純利益}}{\text{基本的加重平均株式数(当期(四半期)における普通株式の発行済加重平均株式数)}}$$

(3) 希薄化後1株当たり当期(四半期)純利益とは、以下のような計算式で計算されます。

$$\text{希薄化後1株当たりの当期純利益} = \frac{\text{普通株主に帰属する当期(四半期)純利益}}{\text{希薄化後加重平均株式数(当期(四半期)における普通株式の発行済加重平均株式数 + 潜在的普通株式の数)}}$$

連結貸借対照表の情報:

	2019年9月30日現在	2018年12月31日現在
現金及び現金同等物	28,005 (3,022,300)	25,941 (2,799,553)
有形固定資産(純額)	506 (54,608)	611 (65,939)
資産合計	37,460 (4,042,683)	30,706 (3,313,792)
流動負債	6,405 (691,228)	1,919 (207,098)
株主資本合計	30,949 (3,340,016)	28,631 (3,089,858)

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第3【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、本書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について、下記の追加事項以外に重要な変更はありません。なお、追加事項は下線部のとおりです。

米国及び中国間の貿易政策における変更は、当社の売上高及び経営成績に悪影響を与える可能性があります。

米国政府は、貿易政策を大幅に見直す主張を掲げており、特に中国からの特定の輸入製品に新たに又は追加的に関税を賦課する考えを示しました。

当社の売上高の大部分はアジア、特に中国における顧客を対象としております。2019年9月30日に終了した当第3四半期累計期間の当社売上高に対する、アジア及び中国における顧客への売上高の割合は、それぞれ約100%及び73%を占めました。さらに、同四半期累計期間の当社売上高の50%を占めている当社製品の最大販売先である完成品メーカーのHikvision社は、中国に所在しております。

米国議会においては、特定の電気通信機器の購買や当該電気通信機器を使用するすべての機器、システム、サービスを使用している会社と米国政府機関との契約締結を禁ずること等を含む、2019年度のジョン・S・マケイン防衛認証法(NDAA)が可決承認されました。当社製品の最大販売先である完成品メーカーのHikvision社によって製造される監視カメラ装置は、NDAAの対象となる特定の電子通信機器に含まれているところ、当社がHikvision社に販売する製品は同社の監視カメラ装置に使用されております。NDAAはHikvision社による米国における政府機関以外への販売を禁止してはいませんが、かかる状況は、当社の事業が不確実な規制環境に直面していることを露呈しています。

米国政府は、「不公平な貿易慣行」への対抗措置として、中国からの特定の輸入製品について、新規の又は追加的な関税を課すこととしました。中国政府も、米国からの輸入品に対して、同様の対抗策を講ずることで応じました。両国間での報復措置は、本有価証券報告書の提出日以降も更に深刻化するリスクがあります。当社の製品にも中国政府からの関税が新たに賦課された場合、当社の製品にかかる中国の顧客による取得費用が増加することとなります。その場合、当社の製品が顧客にとってより高価となり、顧客の需要を減らす可能性があります。当社は、オペレーションの変更又は製品の値上げ等によって対応する必要性に迫られる可能性があります。かかる対応を行えない場合又はかかる対応が期待された効果を生じない場合、当社の売上高及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

米国の政権、議会の一部、及び連邦政府の官僚は、中国のみならず、アジア太平洋諸国との貿易についても、更なる保護主義の導入を主張しています。新たな又は追加的な関税、若しくは特定の製品の輸入禁止措置といった貿易障壁が米国政府より導入される可能性もあり、当社の売上高及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

米国時間の2019年10月7日、米国商務省産業安全保障局(以下「BIS」といいます。)は、Hikvision社が、同月9日付でBISによる企業リストに加えられ、これにより、米国輸出管理規則(以下「EAR」といいます。)に服する物品については同社との取引に米国政府の許可が必要になることを発表しました。

当社は、昨年以來、外部専門家の協力を得つつ、当社の製品がEARによる規制に服するか否かを継続的に確認してまいりました。この度、BISによる上記の発表を受け、外部専門家の協力のもと、当社は改めて当社の製品及び製造工程についての包括的な検証を行いました。その上で、当該検証に基づき、当社の製品はEARによる規制に服するものではないと認識しております。

そのため、当社は、米国政府による輸出許可を受けることなく、引き続きHikvision社に対して当社製品を輸出することができるものと認識しておりますが、かかる認識は本四半期報告書提出日現在の確認及び検討結果に基づくものであり、今後の米国連邦政府の政策変更等により、当社製品の輸出について何らかの規制が及ぶ場合、当社の事業及び経営成績は悪影響を受ける可能性があります。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

業績等の概要

以下の討議及び分析は、本書に記載された当社の要約連結財務書類及びその注記と一体をなすものです。この討議は、当社の当四半期連結会計期間の末日現在の予想、仮定、見積り及び予測に基づく将来予想に関する記述を含んでいます。これらの将来予想に関する記述には、リスクと不確実性が含まれています。当社の実績は、何らかの要因の結果として、これらの将来予想に関する記述に示される業績と大きく異なる可能性があります。

概要

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、米中の貿易摩擦を主因とするサプライチェーンの混乱などを背景に、世界同時減速の懸念が生じています。2019年10月には国際通貨基金(IMF)が世界経済見通しで2019年の成長率を3.0%と、7月時点から0.2ポイント引き下げたほか、世界の多くの地域で経済が減速していることを指摘しました。日本市場は、製造業の設備投資計画等は引き続き底堅いものの、日銀による2019年9月の全国企業短期経済観測調査(日銀短観)によれば、大企業製造業の景況感は3四半期連続の悪化を示しており、先行きの不透明感が増しています。また、不特定多数の市民が犠牲となるテロが世界各地で頻発するなど地政学的リスクも引き続き増大し、東アジアや中東地域などの動向が、世界経済の波乱要因となることが危惧されています。

当社の主力製品を展開する監視カメラシステム市場は、地政学的リスク増大や、人々の安心・安全への関心も後押しし、世界全体で拡大基調が続いています。調査会社であるMarketsandMarkets社の調査レポート「Video Surveillance Market Global Forecast to 2023」(2018年4月)によれば、全世界の監視カメラシステム市場(ハードウェア及びソフトウェアなどを含む)は、2018年に約369億米ドルに達する見込みで、その後2023年に約683億4,000万米ドルと、年平均13.1%で成長すると予測しています。

また、監視カメラシステム市場では、従来は解像度の低いVGAクラス(SD解像度)が主流でしたが、より鮮明に撮影できるHD解像度のカメラの需要が高まっており、今後は新規設置に加えて置き換え需要も伸びる見込みです。特に、敷設済みの同軸ケーブルのまま、SD解像度からHD解像度のカメラに置き換えられる「HD解像度アナログカメラシステム」は、インフラ投資コストを抑えられる手法として注目が高まっています。なお、HD解像度の監視カメラには大きく「IPシステム」と「HD解像度アナログシステム」の2つの伝送方式が存在しており、両者は競合関係にあります。

今後さらなる伸びが期待できるのが車載カメラシステム市場です。調査会社のテクノ・システム・リサーチは、車載カメラシステムの世界販売台数が、2018年の1億1000万台から2030年に2億3000万台に増加すると予測しています(出典:テクノ・システム・リサーチ、『Automotive Camera Market Analysis 2018』、2018年10月)。ただし、車載カメラにおける新たなシステムの採用プロセスは非常に厳格であり時間を要するところ、現段階においてはSD解像度のカメラが車載カメラの主流であり、HD解像度のカメラへの移行は端緒についたばかりです。当社は監視カメラシステム市場向けに培った半導体技術を、車載カメラ向けに応用することで、車載機器メーカーの需要に合致した半導体製品の出荷を始めています。具体的には、当社製品を採用した完成品が日本の大手自動車メーカーのディーラー・オプションとして2016年8月から販売されており、また、中国、台湾及び韓国において、アフターマーケット品として複数の自動車部品メーカーに採用されており、今後は当社の売上げに占める車載カメラシステム向け製品の割合が徐々に高まっていくことを見込んでいます。

(1) 財政状態の分析

資産

流動資産

2019年9月30日現在の流動資産は36百万米ドルであり、2018年12月31日に対して6.5百万米ドル又は22%の増加となりました。これは主に、手元又は製造過程における在庫数が製品販売数を上回ったことによる4.6百万米ドルの当期棚卸資産の増加と2.1百万米ドルの現金及び現金同等物の増加によるものです。現金及び現金同等物の増加については、キャッシュ・フローの分析をご参照下さい。

非流動資産

2019年9月30日現在の非流動資産は総額1.7百万米ドルであり、2018年12月31日に対して0.3百万米ドル又は19%の増加となりました。これは主に、新会計基準である「リース(Topic 842)」の導入により、2019年度から計上され始めたリース資産0.4百万米ドルの増加が、減価償却による有形固定資産0.1百万米ドルの減少によって相殺されたものです。

負債及び株主資本

流動負債

2019年9月30日現在の流動負債は総額6.4百万米ドルであり、2018年12月31日に対して4.5百万米ドル又は234%の増加となりました。これは主に、入金と出荷の時期のずれによる顧客預かり金の3.4百万米ドルの増加、発注と支払いの時期のずれにより生じる買掛金の0.4百万米ドルの増加、新会計基準である「リース(Topic 842)」の導入により2019年度より新たに計上され始めた流動リース負債の0.4百万米ドルの増加及び、費用の発生と支払い請求の時期のずれにより生じる未払費用の0.3百万米ドルの増加によるものです。

非流動負債

2019年9月30日現在の非流動負債は総額0.1百万米ドルであり、2018年12月31日に対して50千米ドル又は32%の減少となりました。これは主に、その他の長期負債(未認識の税務ベネフィット)の42千米ドルの減少によるものです。

株主資本

2019年9月30日現在の株主資本は総額30.9百万米ドルであり、2018年12月31日に対して2.3百万米ドル又は8%の増加となりました。これは主に、2019年第3四半期累計純利益1.2百万米ドル及び株式報酬であるストック・ユニットやストック・オプションの権利確定及び行使による資本剰余金の1.1百万米ドルの増加によるものです。

(2) キャッシュ・フローの分析

2019年9月30日及び2018年12月31日現在の現金及び現金同等物は、それぞれ28.0百万米ドル及び25.9百万米ドルでした。現在の現金及び現金同等物並びに事業から得られると予想している現金の総額は、次の12か月間の事業運営に必要な運転資本の額と比較して十分な水準にあると考えています。

以下の表は、2019年及び2018年9月30日に終了の9か月間の当社のキャッシュ・フローの要約を示しています。

	9月30日終了の9か月	
	2019年	2018年
	(単位: 千米ドル(千円))	
営業活動によるキャッシュ・フロー(純額)	2,260	3,276
	(243,899)	(353,546)
投資活動によるキャッシュ・フロー(純額)	267	276
	(28,815)	(29,786)
財務活動によるキャッシュ・フロー(純額)	71	310
	(7,663)	(33,455)
現金及び現金同等物の増加	2,064	3,310
	(222,747)	(357,215)

営業活動によるキャッシュ・フロー

当社の営業活動により獲得した現金は、主に当社の顧客からの現金回収によるものです。当社の営業活動により獲得した現金の増減は売上高の変動による影響を受けます。また、当社の営業活動により獲得した現金の主な使用目的は、従業員に係る費用、研究開発費並びに販売費及び一般管理費となっております。

2019年9月30日に終了した9か月間において、営業活動により獲得した現金（純額）は2.3百万米ドルでした。主な要因は、当四半期純利益1.2百万米ドルによる現金の増加、株式報酬、減価償却費及び、過剰棚卸資産評価引当金による非資金費用2.0百万米ドルによる現金の増加が、運転資金の変動による0.9百万米ドルの現金の減少により一部相殺されたことによるものです。当社の運転資金の変動による現金の減少は、主に、手元又は製造過程における在庫数を将来的な需要に備えて増加させたことにより製品販売数を上回った結果、棚卸資産が4.9百万米ドルの増加したことが、顧客の前払いの時期のずれによる顧客預り金3.4百万米ドルの増加及び発注と支払いの時期のずれにより生じる買掛金0.6百万米ドルの増加によって一部相殺されたことによるものです。

2018年9月30日に終了した9か月間において、営業活動により獲得した現金（純額）は3.3百万米ドルでした。主な要因は、当四半期純利益1.2百万米ドルによる現金の増加、株式報酬、減価償却費及び過剰棚卸資産評価引当金が繰延税金により部分的に相殺された非資金費用1.3百万米ドルによる現金の増加、及び運転資金の変動による0.8百万米ドルの現金の増加です。当社の運転資金の変動による現金の増加は、主に、サービス提供とその対価の請求の時期のずれにより生じる0.4百万米ドルの未払費用の増加、発注と支払いの時期のずれにより生じる0.3百万米ドルの買掛金の増加、製品販売数が手元又は製造過程における在庫数を上回った結果としての棚卸資産0.3百万米ドルの減少、顧客の前払いの時期のずれによる顧客預り金の0.2百万米ドルの増加が、入金と出荷の時期のずれにより生じる売掛金の0.3百万米ドルの増加により相殺されたことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

2019年及び2018年9月30日に終了の9か月間において、当社の投資活動に使用した現金（純額）は、それぞれ有形固定資産の取得による0.3百万米ドル及び0.3百万米ドルです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

2019年及び2018年9月30日に終了の9か月間において、当社の財務活動により獲得した現金（純額）は、それぞれ主にストック・オプションの行使による収入の0.1百万米ドルと0.3百万米ドルでした。

(3) 経営成績の分析

売上高

2019年及び2018年9月30日に終了の3か月間、並びに2019年及び2018年9月30日に終了の9か月間の比較は以下の通りです。

	9月30日終了の3か月		増減		9月30日終了の9か月		増減	
	2019年	2018年	金額	%	2019年	2018年	金額	%
	(単位：千米ドル(千円))							
売上高	9,613	8,667	946	11%	21,809	22,190	381	2%
	(1,037,435)	(935,343)	(102,092)		(2,353,627)	(2,394,745)	(41,118)	

2019年9月30日に終了した3か月間の売上高は、前年同期と比較して0.9百万米ドル又は11%増加しました。これは、車載カメラシステム市場向け半導体製品の売上高が1.5百万米ドル増加したことによるもので、同製品の出荷数の129%の増加が顧客及び製品構成の変化に伴う16%の平均販売価格の減少によって部分的に相殺されたことが主な要因です。この車載カメラシステム市場向け半導体製品の売上高の増加は主に、顧客及び製品構成の変化による24%の平均販売価格の減少に伴う、監視カメラシステム市場向け半導体製品の売上高の0.5百万米ドルの減少により、部分的に相殺されました。

2019年9月30日に終了した9か月間の売上高は、前年同期と比較して0.4百万米ドル又は2%減少しました。これは主に、監視カメラシステム市場向け半導体製品の売上高が、顧客及び製品構成の変化に伴う23%の平均販売価格の減少に伴い、4.3百万米ドル減少したこと、その一方でこの減少が、車載カメラシステム市場向け半導体製品の出荷数の120%の増加に伴う同製品の売上高の3.9百万米ドルの増加により、部分的に相殺されたことによるものです。

地域別売上高

2019年及び2018年9月30日に終了の3か月間、並びに2019年及び2018年9月30日に終了の9か月間の地域別売上高の内訳比率は以下の通りです。

	9月30日終了の3か月		9月30日終了の9か月	
	2019年	2018年	2019年	2018年
中国	79%	81%	73%	82%
台湾	10	7	13	4
韓国	9	8	11	9
日本	2	4	3	5
その他	0	0	0	0
合計	100%	100%	100%	100%

売上原価及び売上総利益率

	9月30日終了の3か月		増減		9月30日終了の9か月		増減	
	2019年	2018年	金額	%	2019年	2018年	金額	%
	(単位：千米ドル(千円))							
売上原価	4,874	4,220	654	15%	10,862	10,513	349	3%
	(526,002)	(455,423)	(70,580)		(1,172,227)	(1,134,563)	(37,664)	
売上総利益率	49%	51%			50%	53%		

2019年9月30日に終了した3か月間の売上原価は、前年同期と比較して0.7百万米ドル又は15%増加し、売上総利益率は51%から49%へと減少しました。この売上原価の増加は主に、半導体出荷数の40%の増加によるものです。顧客及び製品構成の変化は、売上総利益率にマイナスの影響を及ぼしました。

2019年9月30日に終了した9か月間の売上原価は、前年同期と比較して0.3百万米ドル又は3%増加し、売上総利益率は53%から50%へと減少しました。この売上原価の増加は主に、半導体出荷数の19%の増加及び0.2百万米ドルの在庫評価減の増加によるものです。これは主に、製品構成の変化による製造費用の減少によって部分的に相殺されました。また、顧客構成の変化及び在庫評価減の増加は、売上総利益率にマイナスの影響を及ぼしました。

当社は将来的に、製品構成の変化、平均製品単価、半導体製造費、製品歩留まり及び在庫評価減の変動並びに製品需要の変化などの要因によって、売上総利益率の変動を予想しています。

研究開発費

	9月30日終了の3か月		増減		9月30日終了の9か月		増減	
	2019年	2018年	金額	%	2019年	2018年	金額	%
	(単位：千米ドル(千円))							
研究開発費	1,686	1,704	18	1%	4,762	5,493	731	13%
	(181,953)	(183,896)	(1,943)		(513,915)	(592,805)	(78,890)	

2019年9月30日に終了した3か月間の研究開発費は、前年同期と比較して、18千米ドル又は1%減少しました。これは主に、テーパーアウト費用の0.2百万米ドルの減少が、製品開発に係る設計費用の0.1百万米ドルの増加及び製品開発業務拡大に伴う4%の人員増による人件費の0.1百万米ドルの増加によって、部分的に相殺されたことによるものです。

2019年9月30日に終了した9か月間の研究開発費は、前年同期と比較して、0.7百万米ドル又は13%減少しました。これは主に、テーパーアウト費用の1.2百万米ドルの減少が、製品開発業務拡大に伴う5%の人員増による人件費の0.2百万米ドルの増加、デザインソフトウェア費用の0.1百万米ドルの増加及び株式報酬費用の0.1百万米ドルの増加によって部分的に相殺されたことによるものです。

販売費及び一般管理費

	9月30日終了の3か月		増減		9月30日終了の9か月		増減	
	2019年	2018年	金額	%	2019年	2018年	金額	%
	(単位：千米ドル(千円))							
販売費及び一般管理費	1,442	1,899	457	24%	4,939	5,092	153	3%
	(155,621)	(204,940)	(49,319)		(533,017)	(549,528)	(16,512)	

2019年9月30日に終了した3か月間の販売費及び一般管理費は、前年同期と比較して、0.5百万米ドル又は24%減少しました。これは主に、0.3百万米ドルの専門家費用の減少及び0.2百万米ドルの株式報酬費用の減少によるものです。

2019年9月30日に終了した9か月間の販売費及び一般管理費は、前年同期と比較して、0.2百万米ドル又は3%減少しました。これは主に、0.2百万米ドルの株式報酬費用の減少によるものです。

その他の収益(費用)

	9月30日終了の3か月		増減		9月30日終了の9か月		増減	
	2019年	2018年	金額	%	2019年	2018年	金額	%
	(単位：千米ドル(千円))							
その他の収益(費用)	2	94	96	102%	41	130	89	68%
	(216)	(10,144)	(10,360)		(4,425)	(14,029)	(9,605)	

2019年9月30日に終了した3か月間のその他の収益は、2千米ドル、2018年9月30日に終了した3か月間のその他の費用は、0.1百万米ドルでした。これは主に、外国為替取引及び外国為替差益・差損の影響によるものです。

2019年及び2018年9月30日に終了した9か月間のその他の収益は、それぞれ41千米ドル及び0.1百万米ドルでした。これは主に、外国為替取引及び外国為替差益の影響によるものです。

法人税費用

	9月30日終了の3か月		増減		9月30日終了の9か月		増減	
	2019年	2018年	金額	%	2019年	2018年	金額	%
	(単位：千米ドル(千円))							
法人税等	156	186	30	16%	113	16	129	806%
	(16,836)	(20,073)	(3,238)		(12,195)	(1,727)	(13,922)	

2019年9月30日に終了した3か月間の法人税費用は、前年同期と比較して、30千米ドル又は16%減少しました。これは主に、納税引当金の戻入れが、課税所得の増加によって部分的に相殺されたことによるものです。

2019年9月30日に終了した9か月間の法人税費用は、0.1百万米ドル、2018年9月30日に終了した9か月間の法人税費用の戻入れは、16千米ドルでした。これは主に、ストック・オプションの行使及びそれにより交付された株式の売却による税務上のベネフィットの減少及び課税所得の増加によるものです。

四半期純利益

	9月30日終了の3か月		増減		9月30日終了の9か月		増減	
	2019年	2018年	金額	%	2019年	2018年	金額	%
	(単位：千米ドル(千円))							
四半期純利益	1,457	564	893	158%	1,174	1,238	64	5%
	(157,239)	(60,867)	(96,373)		(126,698)	(133,605)	(6,907)	

前述の結果、2019年9月30日に終了した3か月間の当社グループの四半期純利益は、前年同期と比較して、0.9百万米ドル又は158%増加し、1.5百万米ドルの純利益となりました。

また、2019年9月30日に終了した9か月間の当社グループの四半期純利益は、前年同期と比較して、0.1百万米ドル又は5%減少し、1.2百万米ドルの純利益となりました。

(4) 当社の業績に重大な影響を及ぼす可能性のある要因

契約義務

当社は、特定のオペレーティング・リースに基づき将来における支払義務を負っています。2019年9月30日現在の契約義務残高は、以下の表に要約しています。

	合計	1年未満	1年 - 3年	3年超
	(単位：千米ドル(千円))			
オペレーティング・リース	382	382	-	-
	(41,225)	(41,225)	(-)	(-)
購入契約	660	294	366	-
	(71,228)	(31,729)	(39,499)	(-)
合計	1,042	676	366	-
	(112,453)	(72,954)	(39,499)	(-)

重大なペナルティなしに解約できる契約上の義務は、上記の表には含まれていません。

オフバランスシート契約

2019年9月30日に終了した9か月間において、当社は、オフバランスシート契約を促進する目的又その他の契約上の制限された目的で設立されたストラクチャード・ファイナンス、特別目的会社等非連結企業又は財務上のパートナーシップとの関係はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結累計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】 (2019年9月30日現在)

	授権株式数(株)	発行済株式総数(株)	未発行株式数(株)
普通株式	75,000,000	17,448,347	57,551,653
優先株式	5,000,000	-	5,000,000

(注1) ストック・オプションの早期行使により発行された権利未確定の普通株式は、2019年9月30日現在78,757株でした。当該普通株式は、会計上は発行済株式と取り扱われませんが、法律上は所有者に議決権、配当受領権、残余財産分配請求権が与えられることから、上記発行済株式総数に含んでおります。

(注2) 新株予約権の行使により発行される予定の株式の種類は普通株式であり、その数は以下のとおりです。なお、以下の株式数は上記発行済株式総数に含んでおりません。

2017年ストックインセンティブプランに基づく加重平均行使価格2.3ドルの発行済みストック・オプションの行使により発行されることとなる普通株式842,328株(2019年9月30日現在)

普通株式308,075株に相当するストック・ユニット。このストック・ユニットの保有者は、将来の一定の日において、所定の条件を充足していることを条件に、金銭の払込みなく普通株式が付与されます。リストラクテッド・ストック(譲渡制限付株式)と異なり、その権利が確定し普通株式取得権が行使されるまでは、ストック・ユニットに潜在する普通株式は発行されず、その保有者は議決権、配当受領権、残余財産分配請求権を有しません。したがって、上記308,075株は上記発行済株式総数に含んでおりません。

2019年9月30日現在、2017年ストックインセンティブプランに基づく将来の発行のために確保されている普通株式5,052,933株

(注3) リストラクテッド・ストック(譲渡制限付株式)及びストック・オプションは、当社取締役会の定めるストックインセンティブプランに基づいて発行されます。

2017年ストックインセンティブプランにおいては、従業員、独立取締役、アドバイザー及びコンサルタントに対して、ストック・オプション、リストラクテッド・ストック(譲渡制限付株式)、ストック・ユニット、株式評価益受領権(SAR)、現金報酬及び業績連動型報酬の付与が用意されています。また、株式ではなく当社普通株式を信託財産とする有価証券信託受益証券(JDR)が付与されることもあります。当社の報酬委員会又は取締役会が当該プランを運営し、報酬の付与対象者、付与株式数又は付与額、及び発行価格、行使価格、権利確定期間又は行使期間を含む条件を決定します。

【発行済株式】(2019年9月30日現在)

記名・無記名の別及び額面・無額面の別	種類	発行数 (株)	上場金融商品取引 所名又は登録認可 金融商品取引業協 会名	内容
記名式額面株式 (額面0.0001米ドル)	普通株式	17,448,347	非上場	完全議決権株式で あり権利内容に何 ら限定のない当社 における標準とな る株式です。
計		17,448,347		

(注) 当社普通株式を信託財産とする有価証券信託受益証券(JDR)を東京証券取引所マザーズ市場に上場しています。
JDR 1口は、普通株式1株の権利を表章しています。2019年9月30日現在の発行済JDRの数は5,413,607口です。

(2)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(3)【発行済株式総数及び資本金の推移】(2019年9月30日現在)

	発行済株式総数(株)		資本金(千米ドル)		資本金(千円)		摘要
	増減数	残高	増減額	残高	増減額	残高	
2019年7月31日	8,150	17,368,017	0	2	0	216	ストック・ユニットの権利確定
2019年8月31日	8,875	17,376,892	0	2	0	216	ストック・ユニットの権利確定
2019年9月30日	900	17,377,792	0	2	0	216	ストック・ユニットの権利確定
2019年9月30日	(3,960)	17,373,832	(0)	2	(0)	216	ストック・ユニットの権利確定及び権利確定に伴う源泉課税の為の株取得
2019年9月30日	74,515	17,448,347	0	2	1	216	第3四半期中のオプションの行使

(注1) スtock・ユニットの権利確定については、各月内の株式数を末日付で一括して記載しています。

(注2) スtock・オプションの行使及びStock・ユニットの権利確定に伴う源泉課税の為の株取得については、各々、当四半期会計期間の合計数を記載しています。

(注3) 2019年9月30日の新株予約権の残高、新株予約権の行使により発行する株式の発行価格及び資本組入れ額、その他新株予約権の行使により発行される予定の株式については、「(1) 株式の総数等 株式の総数」の(注2)をご参照ください。

(4)【大株主の状況】

当四半期会計期間は、第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。なお、2019年10月8日付で、以下の役員の異動がありました。

(1) 新任役員 (2019年10月8日現在)

氏名	生年月日	役職名	任期	所有普通株式数
ヴォール マーク	1954年6月4日	最高財務責任者 (CFO) 兼管理担当副社長 ⁽¹⁾	任期なし (2019年10月就任)	45,000 ⁽²⁾

(1) 同氏の役職名は、当四半期報告書提出日現在、最高財務責任者 (CFO) 兼管理担当副社長兼秘書役であります。

(2) 同氏は、別途、80,000株分の権利未確定ストック・ユニットを保有しております。

ヴォール マーク

ヴォール氏は、半導体企業であるアクアンティア社 (Aquantia Corporation) にて、2016年1月から、同社がマーヴェル・テクノロジー・グループ (Marvell Technology Group Ltd.) によって買収される2019年9月まで、最高財務責任者を務めました。アクアンティア社での勤務以前は、2012年から2016年までモンテージ・テクノロジー・グループ (Montage Technology Group, Ltd.)、2010年から2011年までインヴェンセンス社 (InvenSense, Inc.)、2005年から2010年までテックウェル社 (Techwell, Inc.)、2002年から2005年までモーシス社 (MoSys, Inc.) と様々な半導体企業にて最高財務責任者を務め、モーシス社では暫定最高経営責任者も兼任しました。2014年から2016年には、当社のコンサルタントとして財務及び会計に助言していました。ヴォール氏は、プロビデンス・カレッジにて経営学の学士号を取得しています。

(2) 退任役員

役職	氏名	退任年月日
暫定最高財務責任者 (CFO) 兼秘書役	ウォング スティーブン	2019年10月8日

(3) 異動後の役員の男女別人数及び女性の比率

男性7名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

第5【経理の状況】

本書記載のテックポイント・インク(以下「当社」といいます。)の2019年9月30日に終了した四半期要約財務書類は、米国において一般に公正妥当と認められた会計原則に準拠して作成された四半期要約財務書類を日本語に翻訳したものであり、「四半期財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号、以下「四半期財務諸表規則」といいます。)第85条第1項の規定の適用を受けています。

当該四半期要約財務書類は、独立監査人であるピーディーオー・ユーエスエー・エルエルピーによるレビューを受けておりますが、監査は受けておりません。

本書記載の当社の連結財務書類(原文)は、米ドルで表示されています。「円」で表示されている金額は、四半期財務諸表規則第88条の規定に基づき、2019年9月30日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信直物売買相場の仲値に基づき1米ドル=107.92円で換算された金額であります。この換算は、もっぱら読者の便宜のためのものであり、その金額が上記の相場で実際に日本円に交換されたり、交換できたであろうというように解するべきものではありません。

日本において一般に公正妥当と認められている企業会計基準、会計処理及び表示方法との主な相違点に関する事項は、「3.米国と日本における会計原則及び会計慣行の主要な相違」において説明されています。

円換算額及び「3.米国と日本における会計原則及び会計慣行の主要な相違」は、当社の原文の連結財務書類には含まれておらず、当社の監査人であるピーディーオー・ユーエスエー・エルエルピーの監査の対象にもなっていません。

1【四半期財務書類】

テックポイント・インク
要約四半期連結貸借対照表
(単位：株式数を除き、千米ドル、千円 未監査)

	2019年9月30日現在		2018年12月31日現在	
	千米ドル	千円	千米ドル	千円
資産				
流動資産：				
現金及び現金同等物	28,005	3,022,300	25,941	2,799,553
売掛金	80	8,634	236	25,469
棚卸資産	6,851	739,360	2,207	238,179
前払費用及びその他の流動資産	874	94,321	936	101,013
流動資産合計	35,810	3,864,615	29,320	3,164,214
有形固定資産（純額）	506	54,608	611	65,939
繰延税金資産	575	62,054	560	60,435
リース資産	365	39,391	-	-
その他の資産	204	22,015	215	23,204
資産合計	37,460	4,042,683	30,706	3,313,792
負債及び株主資本				
流動負債：				
買掛金	1,500	161,880	1,063	114,719
未払費用	1,048	113,100	718	77,487
早期行使ストック・オプション関連債務	85	9,174	136	14,676
顧客預り金	3,398	366,712	2	216
リース負債	374	40,362	-	-
流動負債合計	6,405	691,228	1,919	207,098
その他の長期負債	106	11,439	156	16,836
負債合計	6,511	702,667	2,075	223,934
コミットメント及び偶発債務（注記5）				
株主資本：				
優先株式、額面価格0.0001米ドル（0.01円）				
授権株式数、2019年9月30日及び2018年12月31日現在、それぞれ5,000,000株及び5,000,000株				
発行済株式数、2019年9月30日及び2018年12月31日現在、それぞれ0株及び0株	-	-	-	-
普通株式、額面価格0.0001米ドル（0.01円）				
授権株式数、2019年9月30日及び2018年12月31日現在、それぞれ75,000,000株及び75,000,000株				
発行済株式数、2019年9月30日及び2018年12月31日現在、それぞれ17,369,590株及び17,130,507株	2	216	2	216
資本剰余金	20,502	2,212,576	19,358	2,089,116
利益剰余金	10,445	1,127,224	9,271	1,000,526
株主資本合計	30,949	3,340,016	28,631	3,089,858
負債及び株主資本合計	37,460	4,042,683	30,706	3,313,792

添付の要約連結財務書類に対する注記をご参照下さい。

テックポイント・インク

要約四半期連結損益及び包括利益計算書

(単位：株式数及び1株当たり金額を除き、千米ドル、千円 未監査)

	9月30日に終了の3か月			
	2019年		2018年	
	千米ドル	千円	千米ドル	千円
売上高	9,613	1,037,435	8,667	935,343
売上原価	4,874	526,002	4,220	455,423
売上総利益	4,739	511,433	4,447	479,920
営業費用				
研究開発費	1,686	181,953	1,704	183,896
販売費及び一般管理費	1,442	155,621	1,899	204,940
営業費用合計	3,128	337,574	3,603	388,836
営業利益	1,611	173,859	844	91,084
その他の収益(費用)	2	216	94	10,144
税引前四半期純利益	1,613	174,075	750	80,940
法人税等	156	16,836	186	20,073
四半期純利益	1,457	157,239	564	60,867
1株当たり四半期純利益 (米ドル(円))				
基本的	0.08	9	0.03	3
希薄化後	0.08	9	0.03	3
1株当たり四半期純利益 を計算する際の加重平均株式数				
基本的	17,316,172		17,045,689	
希薄化後	17,899,140		17,922,635	
その他の包括利益	-	-	-	-
四半期包括利益	1,457	157,239	564	60,867

添付の要約連結財務書類に対する注記をご参照下さい。

9月30日に終了の9か月

	2019年		2018年	
	千米ドル	千円	千米ドル	千円
売上高	21,809	2,353,627	22,190	2,394,745
売上原価	10,862	1,172,227	10,513	1,134,563
売上総利益	10,947	1,181,400	11,677	1,260,182
営業費用				
研究開発費	4,762	513,915	5,493	592,805
販売費及び一般管理費	4,939	533,017	5,092	549,528
営業費用合計	9,701	1,046,932	10,585	1,142,333
営業利益	1,246	134,468	1,092	117,849
その他の収益	41	4,425	130	14,029
税引前四半期純利益	1,287	138,893	1,222	131,878
法人税等	113	12,195	16	1,727
四半期純利益	1,174	126,698	1,238	133,605
1株当たり四半期純利益 (米ドル(円))				
基本的	0.07	8	0.07	8
希薄化後	0.07	8	0.07	8
1株当たり四半期純利益 を計算する際の加重平均株式数				
基本的	17,239,544		16,936,898	
希薄化後	17,850,360		18,039,404	
その他の包括利益	-	-	-	-
四半期包括利益	1,174	126,698	1,238	133,605

添付の要約連結財務書類に対する注記をご参照下さい。

テックポイント・インク
連結株主資本等変動計算書

(単位：千米ドル、株式数を除く(下段は千円)未監査)

	普通株式		資本 剰余金	利益剰余金 (累積欠損金)	株主資本 合計
	株式数	金額			
2017年12月31日現在	16,752,171	2	17,580	7,386	24,968
ストック・オプションの行使及び早期行使ストック・オプションの権利確定	132,348	(216)	(1,897,234)	(797,097)	(2,694,547)
株式報酬	-	-	138	-	138
		(-)	(14,893)	(-)	(14,893)
当期純利益	-	-	270	-	270
		(-)	(29,138)	(-)	(29,138)
2018年3月31日現在	16,884,519	2	17,988	7,859	25,849
ストック・オプションの行使及び早期行使ストック・オプションの権利確定	114,658	(216)	(1,941,265)	(848,143)	(2,789,624)
株式報酬	-	-	122	-	122
		(-)	(13,166)	(-)	(13,166)
当期純利益	-	-	193	-	193
		(-)	(20,829)	(-)	(20,829)
2018年6月30日現在	16,999,177	2	18,303	8,060	26,365
ストック・オプションの行使及び早期行使ストック・オプションの権利確定	75,459	(216)	(1,975,260)	(869,835)	(2,845,311)
株式報酬	-	-	105	-	105
		(-)	(11,331)	(-)	(11,331)
当期純利益	-	-	551	-	551
		(-)	(59,464)	(-)	(59,464)
2018年9月30日現在	17,074,636	2	18,959	8,624	27,585
		(-)	(-)	(60,867)	(60,867)
		(216)	(2,046,055)	(930,702)	(2,976,973)

	普通株式		資本 剰余金	利益剰余金 (累積欠損金)	株主資本 合計
	株式数	金額			
2018年12月31日現在	17,130,507	2	19,358	9,271	28,631
		(216)	(2,089,116)	(1,000,526)	(3,089,858)
ストック・オプションの行使及び早期行使ストック・オプションの権利確定	46,666	-	64	-	64
		(-)	(6,907)	(-)	(6,907)
ストック・ユニットの権利確定による普通株式の発行	14,200	-	-	-	-
		(-)	(-)	(-)	(-)
ストック・ユニットの権利確定に伴う源泉課税の為の株取得	1,510	-	7	-	7
		(-)	(755)	(-)	(755)
株式報酬	-	-	336	-	336
		(-)	(36,260)	(-)	(36,260)
当期純損失	-	-	-	618	618
		(-)	(-)	(66,694)	(66,694)
2019年3月31日現在	17,189,863	2	19,751	8,653	28,406
		(216)	(2,131,528)	(933,832)	(3,065,576)
ストック・オプションの行使及び早期行使ストック・オプションの権利確定	38,000	-	36	-	36
		(-)	(3,885)	(-)	(3,885)
ストック・ユニットの権利確定による普通株式の発行	31,300	-	-	-	-
		(-)	(-)	(-)	(-)
ストック・ユニットの権利確定に伴う源泉課税の為の株取得	3,553	-	24	-	24
		(-)	(2,590)	(-)	(2,590)
株式報酬	-	-	348	-	348
		(-)	(37,556)	(-)	(37,556)
当期純利益	-	-	-	335	335
		(-)	(-)	(36,153)	(36,153)
2019年6月30日現在	17,255,610	2	20,111	8,988	29,101
		(216)	(2,170,379)	(969,985)	(3,140,580)
ストック・オプションの行使及び早期行使ストック・オプションの権利確定	100,015	-	80	-	80
		(-)	(8,634)	(-)	(8,634)
ストック・ユニットの権利確定による普通株式の発行	17,925	-	-	-	-
		(-)	(-)	(-)	(-)
ストック・ユニットの権利確定に伴う源泉課税の為の株取得	3,960	-	26	-	26
		(-)	(2,806)	(-)	(2,806)
株式報酬	-	-	337	-	337
		(-)	(36,369)	(-)	(36,369)
当期純利益	-	-	-	1,457	1,457
		(-)	(-)	(157,239)	(157,239)
2019年9月30日現在	17,369,590	2	20,502	10,445	30,949
		(216)	(2,212,576)	(1,127,224)	(3,340,016)

添付の要約連結財務書類に対する注記をご参照下さい。

テックポイント・インク
要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書
(単位：千米ドル、千円 未監査)

	9月30日終了の9か月			
	2019年		2018年	
	千米ドル	千円	千米ドル	千円
営業活動によるキャッシュ・フロー				
四半期純利益	1,174	126,698	1,238	133,605
営業活動によるキャッシュ・フローへの調整：				
減価償却費及び償却費	728	78,566	170	18,346
株式報酬	1,021	110,186	1,014	109,431
繰延費用の除却	-	-	57	6,151
過剰棚卸資産評価引当金	266	28,707	93	10,037
繰延税金	15	1,619	69	7,446
資産及び負債の増減：				
売掛金	156	16,836	255	27,520
棚卸資産	4,910	529,887	245	26,440
前払費用及びその他の流動資産	52	5,612	31	3,346
その他の資産	2	216	54	5,827
買掛金	590	63,673	259	27,951
未払費用	320	34,534	401	43,276
顧客預り金	3,396	366,496	191	20,613
リース負債	280	30,218	-	-
その他の長期負債	240	25,901	17	1,835
営業活動によるキャッシュ・フロー（純額）	2,260	243,899	3,276	353,546
投資活動によるキャッシュ・フロー				
有形固定資産の取得	267	28,815	276	29,786
投資活動によるキャッシュ・フロー（純額）	267	28,815	276	29,786
財務活動によるキャッシュ・フロー				
ストック・オプションの行使による収入	128	13,814	367	39,607
ストック・ユニットの権利確定に伴う源泉課税の為の株取得	57	6,151	-	-
繰延費用の支払	-	-	57	6,152
財務活動によるキャッシュ・フロー（純額）	71	7,663	310	33,455
現金及び現金同等物の増加	2,064	222,747	3,310	357,215
現金及び現金同等物 期首残高	25,941	2,799,553	21,536	2,324,165
現金及び現金同等物 期末残高	28,005	3,022,300	24,846	2,681,380
キャッシュ・フローの補足情報				
法人税支払額	35	3,777	43	4,641
非資金投資及び財務活動の補足開示				
未払固定資産購入費用	33	3,561	40	4,317
早期行使ストック・オプションの権利確定	51	5,504	56	6,044

添付の要約連結財務書類に対する注記をご参照下さい。

テックポイント・インク 要約連結財務書類に対する注記

注記1. 組織及び重要な会計方針の要約

組織の概要

テックポイント・インク(以下「当社」といいます。)は、2012年4月にカリフォルニア州で設立され、2017年7月、設立準拠法をデラウェア州に変更しました。当社は、監視カメラシステム及び車載カメラシステム市場向け半導体の設計開発、マーケティング、販売を行っているファブレス半導体企業です。当社の本社は、カリフォルニア州サンノゼにあります。

当社は、日本(2015年11月に設立)と中国(2016年4月設立)にそれぞれ100%保有の完全子会社を有し、韓国と台湾に事務所を有しています。中国の子会社及び台湾事務所は顧客への販売支援及び技術サポートを行っております。日本の子会社と韓国及び台湾の事務所は、それに加えて、製品開発にも関与しています。

新規株式公開

2017年9月29日、当社はJDRの新規公開を完了し、当社普通株式1,520,000株を表章する有価証券信託受益証券(以下「JDR」といいます。)1,520,000口を1株650円(5.85ドル)で募集しました。引受割引及び手数料の0.7百万米ドルを差し引いた正味受取金は8.1百万米ドルでした。また、JDRの新規公開に掛かった費用は合計で3.0百万米ドルでした。JDRの新規公開の完了までに、当社の発行済転換優先株式のすべては、1対1の割合で普通株式へ転換されました。

2017年10月25日、主幹事証券にあらかじめ付与されていた、JDRへの交換を前提とする、オーバーアロットメントによる普通株式の募集に関して、主幹事証券を割当先とする第三者割当増資を行いました。JDRの新規公開時と同じ一株650円(5.85ドル)で228,000株を発行し、当社は引受割引及び手数料の0.1百万米ドルを差し引いた1.2百万米ドルの払込を受領しました。

連結の基礎

未監査の当要約連結財務書類には、当社及び完全子会社が含まれており、米国において一般に公正妥当と認められる会計基準(US GAAP)の規則に基づき作成されています。当要約連結財務書類では、グループ内残高及び取引はすべて消去されています。それぞれの完全子会社の機能通貨は、米ドルであり、為替差損益は、要約連結損益計算書のその他の収益(費用)項目に純額で示されます。

未監査の当要約連結財務書類は、2019年3月15日に提出された当社の有価証券報告書に含まれる当社の監査済財務書類及びその注記と合わせてお読みください。

当要約連結財務書類は未監査であり、当社の見解では、報告期間における当社の財政状態、業績、及びキャッシュ・フローを公正に表示するために必要な通常の反復的調整を含み構成されていますが、通期や将来もしくは期中の業績を示すものではありません。

収益の認識

当社は、製品を、主に代理店を通して完成品メーカー(Original Design Manufacturers, ODM)、製造委託業者及びデザインハウスに販売しています。当社は、2018年1月1日に米国会計基準編纂書「顧客との契約から生じる収益(ASC Topic606)」を導入しました。ASC606導入後、当社は、主に顧客に製品の支配が移転される製品の出荷の時点で履行義務を充足したとして収益を認識しています。次の5つの段階により収益が認識されます。1.顧客との契約を識別する 2.契約における履行義務を識別する 3.取引価格を算定する 4.取引価格を契約における履行義務に配分する 5.企業が履行義務の充足時に収益を認識する。

当社の収益源は、混合信号集積回路の監視カメラシステム市場及び車載カメラシステム市場への販売です。当社は通常、顧客からの前払金を必要とし、受取った前払金を連結貸借対照表の顧客預り金として計上します。当社の履行義務は1年未満の契約に基づくものであるため、ASC606の実務上の免除措置を適用しました。この措置により、当連結会計年度末において、充足されていない、或いは部分的に充足されていない履行義務に配分された取引価格の総額は開示の対象になりません。当社は、品質保証をするのみで、別建ての有償での保証はしていません。当社は、変動対価やその他の特定の支払条件は提示しておらず、取引価格を独立販売価格に基づいて各製品に配分します。製品が出荷され、支配が顧客

に移転し、履行義務が充足された時に収益を認識します。当社の出荷条件は主にFOB (free on board) です。製品の法的な所有権、リスクと経済的便益、物理的な所有権が、出荷時に顧客に移転します。実質的には、全ての顧客が出荷前に支払いを行い、当社からは在庫ローテーション、及び最低価格保証、返品権を提示していません。

経営者の見積りの使用

米国で一般に公正妥当と認められる会計原則 (GAAP) に準拠した要約連結財務書類を作成するためには、経営者は、期末日における資産及び負債の報告金額並びに偶発資産・負債の開示並びに報告期間の売上及び費用の報告金額に影響を与える見積り、判断及び仮定を行わなければなりません。要約連結財務書類に含まれる重要な見積りには、棚卸資産の評価、繰延税金資産の評価性引当金、株式報酬が含まれます。これらの見積りは、当連結会計期間末日現在入手可能な情報に基づいています。実際の結果はこれらの見積りと相違する場合があります。

信用リスクの集中

当社が信用リスクの集中にさらされる可能性の高い金融商品は、主に現金及び現金同等物並びに売上債権です。現金及び現金同等物に伴うリスクは、信用力の高い金融機関との銀行取引によって軽減しています。当社は、一般には顧客に前払金を要求しています。通常の事業過程においては、当社は、顧客の信用評価を行い、信用を供与しています。当社では報告期間中に貸倒損失が発生したことはありません。

個々の重要な顧客と完成品メーカーへの総売上に対する売上の比率は以下になります。

	9月30日終了の3か月		9月30日終了の9か月	
	2019	2018	2019	2018
顧客				
顧客A	66%	70%	61%	76%
完成品メーカー				
完成品メーカーA (1)	65%	59%	50%	62%
完成品メーカーB (1)	*	*	11%	*

* 10%以下

(1) 完成品メーカーA及びBへの売上は主に顧客Aを通じてのものです。

最近適用された会計基準

株式報酬に関する指針 2018年6月、米国財務会計基準審議会は、会計基準更新書第2018-07号「株式報酬 非従業員への株式に基づく報酬の会計処理の改善」を公表しました。会計基準編纂書第718号に、物品やサービスへの対価として非従業員に株式に基づく報酬を付与する際の扱いを加えたものです。この会計基準更新書の改正点は、2018年12月16日以降開始する事業年度及び当該年度の期中報告期間から適用されました。早期適用は認められていますが、当社の「顧客との契約から生じる収益(Topic606)」の導入後に限られます。当社は、2018年7月1日、2018年第3四半期において、当該基準更新書を早期適用しました。この適用による要約連結財務書類への影響はありませんでした。

リースに関する指針 2016年2月、米国財務会計基準審議会は、会計基準更新書第2016-02号、「リース(Topic 842)」を公表しました。会計基準更新書第2016-02号は、借手に対しリース期間が1年を超えるすべてのリースを貸借対照表に使用権資産及びリース負債としてリース開始日に認識することを要求しています。この新基準は、セール・アンド・リースバック取引の会計処理も簡素化しています。この会計基準更新書の改正点は、2018年12月16日以降開始する事業年度及び当該年度の期中報告期間から適用され、財務書類に表示される最も早い比較対象期間の開始日時点で存在、又はそれ以降締結されたリースについて修正遡及移行方式にて適用しなければなりません。また、この新基準は、賃貸人と賃借人が、リース契約に関する質的・量的情報と、この基準適用においてなされた重要な判断を開示することを要求しています。当社は、2019年第1四半期から修正遡及移行方式に基づき、2019年1月1日現在履行中の契約から適用しています。また、当社は、簡便法パッケージを採用した為、1)期間が終了した、もしくは現在進行中の契約が、リース契約であるか、リースを含むかどうか 2)リース期間が終了した、又は現在進行中のリースの種類分け 3)既存のリースに係る直接費用等、の3点を再評価しませんでした。また、別途採用した簡便法に基づき、リースとそれ以外の構成要素を分割表示しておりません。さらに、短期リース取引免除措置の適用を選択し、期間が12か月以内の全てのリースを除外しています。2019年1月1日以降の会計期間における財務情報は、この新基準に基づいていますが、比較対象である過年度の財務情報は前基準に基づいて表示され、調整されることはありません。当該基準更新書の適用日において、当社は、0.8百万米ドルのリース資産と0.9百万米ドルのリース負債を2019年1月1日時点で要約連結貸借対照表に計上し、このリース負債のうち0.2百万米ドルはその他の長期負債に計上しました。一方、適用日において、要約連結損益計算書への当該会計基準更新書の適用による影響はありませんでした。また、利益剰余金への累積的な影響額の調整もありませんでした。

収益認識に関する指針 2014年5月、米国財務会計基準審議会は、会計基準更新書第2014-09号「顧客との契約から生じる収益(Topic606)」を公表しました。この規定の適用により、次の5つの段階に沿って収益は認識されます。1.顧客との契約を識別する 2.契約における履行義務を識別する 3.取引価格を算定する 4.取引価格を契約における履行義務に配分する 5.企業が履行義務の充足時に(又は充足するにつれて)収益を認識する。このアップデートに基づく追加の検討事項には、顧客との契約の獲得又は履行のためのコストに関する会計処理及び追加の定量的・定性的開示が含まれます。会計基準更新書第2014-09号は、2017年12月16日以降開始する事業年度(期中報告期間を含む)、2018年第1四半期から適用され、遡及適用もしくは限定的な遡及適用が認められています。当社は、2018年第1四半期から修正遡及移行方式に基づき、2018年1月1日現在履行中の契約から適用しています。当該基準更新書の適用により、当社の要約連結財務書類への累積的影響はありませんでした。

注記2．貸借対照表の内訳**棚卸資産**

棚卸資産の内訳は、以下のとおりです（単位：千米ドル）。

	2019年9月30日	2018年12月31日
仕掛品	\$2,897	\$961
製品	3,954	1,246
棚卸資産合計	<u>\$6,851</u>	<u>\$2,207</u>

有形固定資産（純額）

有形固定資産（純額）の内訳は、以下のとおりです（単位：千米ドル）。

	2019年9月30日	2018年12月31日
コンピューター設備及びソフトウェア	\$1,321	\$1,173
リース物件改良費	84	84
家具	30	30
	1,435	1,287
控除：減価償却累計額	929	676
有形固定資産（純額）	<u>\$506</u>	<u>\$611</u>

当社の減価償却費は、2019年及び2018年9月30日に終了の3か月間において、それぞれ0.1百万米ドル、0.1百万米ドルであり、2019年及び2018年9月30日に終了の9か月間においては、それぞれ0.3百万米ドル及び0.2百万米ドルです。

未払費用

未払費用の内訳は、以下のとおりです（単位：千米ドル）。

	2019年9月30日	2018年12月31日
給与関係費用	\$485	\$398
製品保証	206	73
エンジニアリング関連費用	197	134
未払法人税	56	28
専門家報酬	51	48
その他	53	37
未払費用合計	<u>\$1,048</u>	<u>\$718</u>

顧客預り金

顧客預り金は出荷の前に顧客から受領する前払金であり、入金と出荷のタイミングによって変動します。2019年9月30日、2019年6月30日及び2018年12月31日現在、顧客預り金はそれぞれ、3.4百万米ドル、1.1百万米ドル及び、2千米ドルでした。当社は、通常、顧客預り金残高を、前四半期貸借対照表の日付に続く3か月間に、収益として認識します。当社は、2019年9月30日に終了した3か月間において、2019年6月30日における顧客預り金残高1.0百万米ドルを、収益として認識しました。また、2019年9月30日に終了した9か月間においては、2018年12月31日における顧客預り金残高2千米ドルを、収益として認識しました。

注記3．公正価値の測定

公正価値とは、測定日に市場参加者の間で秩序ある取引において、資産あるいは負債に関する主要な市場又は最も有利な市場で資産を売却することにより受け取る、あるいは負債を譲渡することに対して支払われるであろう交換価格と定義されています。当社は、金融資産及び負債を観察可能なインプットの使用を最大限にし、観察不能なインプットの使用を最小限にすることを要求する公正価値ヒエラルキーを使用して各報告期間における公正価値で測定しています。公正価値ヒエラルキーによる金融商品の区分は、公正価値の測定にとって重要なインプットの最も低いレベルに基づいています。公正価値の測定のため、3つのレベルのインプットを使用できます。

レベル1. 同一の資産又は負債に関する活発な市場における相場価格。

レベル2. 直接的あるいは間接的に観察可能なレベル1以外のインプット。例えば、類似の資産又は負債に関する相場価格、活発ではない市場における相場価格、観察可能あるいは観察可能な市場データの裏付けがある、その他のインプット。

レベル3. 価格モデル、割引キャッシュ・フロー法及び類似の手法を含む、裏付けとなる市場の活動がほとんど、又は全くなく、資産又は負債の公正価値に影響の大きい観察不能なインプット。

継続的に公正価値測定された金融資産は、以下のとおりです。

	報告日における公正価値測定に使用			合計
	同一の資産について活発な市場における相場価格 (レベル1)	重要な他の観察可能インプット (レベル2)	重要な観察不能インプット (レベル3)	
			(単位: 千米ドル)	
2019年9月30日現在				
資産:				
マネー・マーケット・ファンド	\$6,992	\$-	\$-	\$6,992
2018年12月31日現在				
資産:				
マネー・マーケット・ファンド	\$6,974	\$-	\$-	\$6,974

2019年9月30日及び2018年12月31日現在、マネー・マーケット・ファンドは、市場価格により評価されるため、レベル1に分類され、連結貸借対照表の現金及び現金同等物に計上されています。

注記4. セグメント情報

事業セグメントとは、経営資源の配分を決定し業績を評価するために、経営上の最高意思決定者によって定期的に評価される個別の財務情報が入手可能であるような企業の構成要素と定義されます。

当社の経営上の最高意思決定者である最高経営責任者は、事業の意思決定を行い、財務業績の評価をする目的で、連結ベースで表示された財務情報を定期的にレビューしています。従って当社は、監視カメラ及び車載カメラシステム市場向けの混合信号集積回路の設計、マーケティング及び販売を行う一つの事業セグメントから構成される単一の報告セグメントとみなしています。

製品売上高は、製品が納品される地域に基づいて集計しています。地域別売上高は、以下のとおりです(単位: 千米ドル)。

	9月30日終了の3か月		9月30日終了の9か月	
	2019年	2018年	2019年	2018年
中国	\$7,582	\$6,992	\$15,768	\$18,175
台湾	940	589	2,833	933
韓国	894	705	2,445	2,018
日本	170	370	673	1,047
その他	27	11	90	17
売上高合計	\$9,613	\$8,667	\$21,809	\$22,190

製品ライン別売上高は以下のとおりです (単位: 千米ドル)。

	9月30日終了の3か月		9月30日終了の9か月	
	2019年	2018年	2019年	2018年
監視カメラシステム	\$6,551	\$7,083	\$14,363	\$18,622
車載カメラシステム	3,062	1,584	7,446	3,568
売上高合計	\$9,613	\$8,667	\$21,809	\$22,190

長期性資産は、資産が所在する地域に基づいて集計しています。地域別正味長期性資産は、以下のとおりです (単位: 千米ドル)。

	2019年9月30日	2018年12月31日
台湾	\$356	\$399
日本	66	104
米国	61	102
中国	18	2
韓国	5	4
有形固定資産合計 (純額)	\$506	\$611

注記5 . コミットメント及び偶発債務

オペレーティング・リース

当社は、2020年12月期の間満了する解約不能リース契約に基づいて設備をリースしています。当社のリース契約には、変動リース料の支払は含まれず、リース取引による特段の制限や契約条項もありません。それぞれのリース契約に適用される利率は測定が困難であるため、当社は当社の追加借入利率を割引率として使用しています。当社のリース資産とリース負債は、当初直接費用及び前払賃借料については調整されていますが、リース契約の延長や終了に関する選択肢、残存価値保証、あるいはまだ始まっていないリース取引については反映されていません。

以下の表は、2019年9月30日現在の当社のオペレーティング・リースに係るリース資産とリース負債を表しています (単位: 千米ドル)。

	2019年9月30日
リース資産	\$365
リース負債 (短期)	\$374
リース負債 (長期)	-
リース負債合計	\$374

当社のオペレーティング・リースに基づく賃借料は、2019年及び2018年9月30日に終了の3か月間において、それぞれ0.2百万米ドル及び0.2百万米ドル、2019年及び2018年9月30日に終了の9か月間においては、それぞれ0.5百万米ドル及び0.5百万米ドルでした。

以下の表は、当社のリース資産とリース負債の計算に用いたリース費用と加重平均の仮定を表しています(単位：千米ドル)。

	<u>9月30日終了の9か月</u>
	<u>2019年</u>
オペレーティング・リース費用(1)	\$501
オペレーティング・リースに使用した現金(1)	\$508
リース負債と引き換えに獲得したリース資産(2)	\$839
オペレーティング・リースの加重平均残存期間	0.66年
オペレーティング・リースの加重平均割引率	6.0%

(1) 2019年9月30日に終了した3か月間におけるオペレーティング・リース費用とオペレーティング・リースに使用した現金は、それぞれ0.2百万米ドル及び0.2百万米ドルでした。

(2) 2019年1月1日現在のオペレーティング・リースに基づく金額です。2019年9月30日に終了の9か月間において、新しいリース契約はありませんでした。

以下の表は、2018年12月31日現在のオペレーティング・リースに基づく将来の最低リース料です(単位：千米ドル)。

	<u>2018年12月31日</u>
2019	\$645
2020	201
合計	<u>\$846</u>

以下の表は、2019年9月30日現在のオペレーティング・リースに基づく将来の最低リース料です(単位：千米ドル)。

	<u>2019年9月30日</u>
2019(残存3か月間)	\$181
2020	201
合計	<u>382</u>
割引による減額効果	8
認識リース負債	<u>\$374</u>

購入契約

2019年9月30日現在、当社は2022年まで第三者の仕入先との間で購入契約を有しています。購入契約に基づく将来の最低支払金額は、2019年(残存3か月間)、2020年、2021年及び2022年12月期について、それぞれ0.1百万米ドル、0.3百万米ドル、0.2百万米ドル及び49千米ドルです。

訴訟

当社は、現在訴訟を受けておらず、現在そのおそれもありますが、当社は、通常の事業活動において生じる知的財産に関する訴訟を含め、訴訟手続、賠償請求及び訴訟を受ける可能性があります。そのような事項は、多くの不確実性にさらされており、確証をもって予測することはできません。当社は、損失金額を合理的に見積もることができる訴訟手続に関連する債務及びその他の偶発損失に対応するのに十分であると判断した金額を見越計上します。

損害賠償

通常の事業活動において、当社は、当社の製品の販売に関連した特定の顧客に対する知的財産に関する賠償や当社の製品に基づく相手方の技術の侵害に伴う損害賠償を含む、損害賠償、コミットメント及び保証を行うことがあります。これらの損害賠償等の条項に基づく当社のリスクは、一般的には契約に基づいて顧客により支払われる合計金額に限られます。しかし、一部の契約には、契約に基づいて受け取る金額を超える損失が当社に潜在的に生じる可能性があるような賠償規定を含んでいるものがあります。さらに当社は、執行役、取締役及び一定の幹部社員がその任務を果たす中で忠実義務を尽くしている限りにおいて、彼らに代わり損害賠償を行います。

当社は、添付の要約連結貸借対照表にはこのような損害賠償、コミットメント及び保証に係る負債を計上していません。将来的に支払の蓋然性が高まった場合、損害賠償の規定により生じるものを含めて、把握できた偶発債務に対する損失を見越計上します。

注記6．株主資本

優先株式

当社は、2019年9月30日及び2018年12月31日現在、額面0.0001米ドルの優先株式5,000,000株を発行することが承認されています。2019年9月30日及び2018年12月31日現在、発行済優先株式はありません。

普通株式

当社は、2019年9月30日及び2018年12月31日現在、額面0.0001米ドルの普通株式75,000,000株を発行することが承認されています。2019年9月30日現在、発行済普通株式は、17,369,590株です。（普通株式を取得するオプションの早期行使に関連する買戻し可能となっている法的に発行済の株式78,757株を除きます。）2018年12月31日現在、発行済普通株式は、17,130,507株です。（普通株式を取得するオプションの早期行使に関連する買戻し可能となっている法的に発行済の株式155,257株を除きます。）

当社は、今後の発行のために以下の普通株式数を留保しています。

	<u>2019年9月30日（株式数）</u>
ストック・アワード残高	1,229,160
2017年ストックインセンティブプランに基づき発行可能なストック・アワード	5,052,933
今後の発行のために留保された普通株式合計	<u>6,282,093</u>

注記7．ストック・アワード・プラン

ストックインセンティブプラン

2012年4月に、当社は、2012年ストックインセンティブプラン（以下「2012年プラン」といいます。）を適用しました。取締役会により制定された条件及び規定に基づいて、インセンティブとしてのストック・オプションを従業員、取締役及びコンサルタントに対し付与できます。このプランの条件に基づき、オプションは市場価格以上の行使価格で付与できます。取締役会の決議により、全てのクラスの株式の議決権を10%以上保有する従業員は、インセンティブ及び税制非適格ストック・オプションの行使価格は、付与日における普通株式の市場価格の110%以上でなければなりません。2012年プランに基づいて付与されたオプションの期限は最高10年です。

2012年プランは2017年ストックインセンティブプラン（以下「2017年プラン」といいます。）により置き換えられました。2012年プランに基づいて発行されたアワードは、引き続き2012年プランの条項に準拠します。

2017年8月に、2017年プランを適用しました。2017年9月に取締役会で承認され、当社のJDR新規上場手続きが完了する直前、この2017年プランは株主総会の承認を経て、効力を発しました。2017年プランが有効になったことにより、今後、2012年プランに基づく株式が付与されることはなく、2012年プランで将来の株式発行のために確保されていた株式は、2017年プランが有効になった日に2017年プランにおいて今後の発行のために留保された普通株式数に組み込まれました。また、2012年プランに基づく報酬対象の株式で、失効ないし終了するものは、2017年プランに追加される予定です。また、2017年プランに基づき、2018年1月1日から2027年1月1日（を含む）の間の毎年初日に、（1）直前の事業年度末日における発行済み株式数の4%、もしくは（2）当社の取締役会が定める株式数の、いずれか少ない株式数を自動的に発行します。2019年度において、2017年プランに基づき自動的に発行された付与可能な株式は691,431株でした。本2017年プランにおいては、米国内国歳入法422条に定める税制適格ストック・オプション（インセンティブ・ストック・オプション）が従業員に、また、税制非適格ストック・オプションが従業員、独立取締役、アドバイザー及びコンサルタントに対して用意されています。また、本プランにおいては、リストラクテッド・ストック（譲渡制限付株式）、株式評価益受領権（SAR）、ストック・ユニット、及び現金報酬が、従業員、独立取締役、アドバイザー及びコンサルタントに用意されています。

ストックインセンティブプランに基づく当社のストック・アワードの発行明細は以下の通りです。

	付与可能オプション
2018年12月31日現在	4,434,310
授権	691,431
付与	143,750
失権	70,942
2019年9月30日現在	<u>5,052,933</u>

ストック・オプションの早期行使

一部の従業員及び取締役は、付与されたオプションを権利確定前に行使することが可能です。権利未確定の株式は、当社が当初の取得価格で買戻す権利を有します。収入金額は、早期行使ストック・オプション関連債務として計上され、買戻し権が消滅した場合、普通株式及び資本剰余金に組み替えられます。

2019年9月30日に終了した3か月間及び9か月間において、早期行使されたオプションはありませんでした。また、同時期において、当社が取得価格で買い戻した、早期行使ストック・オプションに関連する権利未確定の普通株式はありませんでした。

2018年9月30日に終了した3か月間及び9か月間において、当社は3,167株及び27,333株の権利未確定の普通株式をオプションの早期行使により発行し、それに伴うオプション行使価格総額1千米ドル及び0.1百万米ドルを受領しました。また、2018年9月30日に終了した9か月間において、当社が取得価格で買い戻した、早期行使ストック・オプションに関連する権利未確定の普通株式は、6,834株です。

2019年9月30日及び2018年12月31日現在、従業員及び従業員以外の者が保有するそれぞれ78,757株及び155,257株が、0.1百万米ドル及び0.1百万米ドルで買戻しの対象です。

ストック・オプション

当社の、ストックインセンティブプランに基づくストック・オプションの発行明細は以下の通りです。

	発行済 オプション	加重平均 行使価格	加重平均 残存契約 期間 (年数)	本源的価値 総額 (単位：千米 ドル)
2018年12月31日現在	1,139,935	\$2.01	7.6	\$3,428
付与	-	-	-	-
行使(1)	184,681	\$0.97	-	-
失権	34,169	\$2.61	-	-
2019年9月30日現在	<u>921,085</u>	\$2.19	7.0	\$4,539
2019年9月30日現在権利確定及び確定予定のオプション	<u>921,085</u>	\$2.19	7.0	\$4,539
2019年9月30日現在権利確定及び行使可能オプション	<u>471,375</u>	\$2.05	6.8	\$2,390

(1) 早期行使オプションの権利確定を含む。

2019年9月30日現在行使価格別ストック・オプション残高及び行使可能数は、以下のとおりです。

オプション残高			権利確定行使可能 オプション		
行使価格	残高数	加重平均残存契約期間 (年数)	加重平均 行使価格	行使可能数	加重平均 行使価格
\$0.16	54,350	4.3	\$0.16	54,350	\$0.16
\$0.37	98,755	5.7	\$0.37	44,414	\$0.37
\$0.97	119,251	6.5	\$0.97	63,549	\$0.97
\$2.51	160,861	6.9	\$2.51	85,593	\$2.51
\$2.89	49,000	7.4	\$2.89	22,250	\$2.89
\$2.93	328,168	7.6	\$2.93	155,854	\$2.93
\$3.18	110,700	7.8	\$3.18	45,365	\$3.18
	921,085	7.0	\$2.19	471,375	\$2.05

2019年及び2018年9月30日に終了の9か月間に行使されたオプションの本源的価値総額は、それぞれ0.6百万米ドル、2.8百万米ドルでした。当社は、複数形態の権利確定契約を従業員と締結しています。付与したオプションは、通常5年間にわたって権利が確定し、一般に10年まで行使可能です。

ストック・ユニット

当社の、ストック・ユニットの発行明細は以下の通りです。

	発行済	付与日における加重平均公正 価値
2018年12月31日現在	255,500	\$11.53
付与	143,750	\$6.34
権利確定	54,402	\$13.16
失権	36,773	\$9.86
2019年9月30日現在	308,075	\$9.02

ストック・ユニットは、権利確定時に1対1の割合で当社の普通株式に転換されます。ストック・ユニットは、権利を付与された者が継続的に会社にサービスを提供していることを前提に、通常5年間にわたって権利が確定します。

注記8．株式報酬

下記の表は、株式報酬費用の配分を要約しています(単位：千米ドル)

	9月30日終了の3か月		9月30日終了の9か月	
	2019年	2018年	2019年	2018年
売上原価	\$29	\$28	\$83	\$46
研究開発費	124	111	370	231
販売費及び一般管理費	184	412	568	737
合計	\$337	\$551	\$1,021	\$1,014

注記9．普通株式1株当たり四半期純利益

下記の表は、基本的1株当たり四半期純利益及び希薄化後1株当たり四半期純利益の計算を表しています（株式数及び1株当たり金額を除き、千米ドル単位）：

	9月30日終了の3か月		9月30日終了の9か月	
	2019年	2018年	2019年	2018年
分子：				
基本的：				
四半期純利益	\$1,457	\$564	\$1,174	\$1,238
希薄化後：				
四半期純利益	\$1,457	\$564	\$1,174	\$1,238
分母：				
基本的株式：				
基本的1株当たり四半期純利益を計算する際に使用した加重平均株式数	17,316,172	17,045,689	17,239,544	16,936,898
希薄化後株式：				
潜在的に希薄化効果のある有価証券の影響：				
ストック・アワード（1）	582,968	876,946	610,816	1,102,506
希薄化後1株当たり四半期純利益を計算する際に使用した加重平均株式数	17,899,140	17,922,635	17,850,360	18,039,404
1株当たり四半期純利益				
基本的	\$0.08	\$0.03	\$0.07	\$0.07
希薄化後	\$0.08	\$0.03	\$0.07	\$0.07

（1）早期に行使されたオプションを含む。

逆希薄化効果のため、希薄化後1株当たり当期純利益の計算から除外された、潜在的に希薄化効果のある有価証券残高は、2019年及び2018年9月30日に終了の3か月間及び、2019年及び2018年9月30日に終了の9か月間において、それぞれ325,000株、50,000株、367,000株及び91,000株です。

注記10．法人税

税引前当期純利益の内訳は、以下のとおりです（単位：千米ドル）。

	9月30日終了の3か月		9月30日終了の9か月	
	2019年	2018年	2019年	2018年
米国	\$1,546	\$708	\$1,108	\$1,089
米国以外	67	42	179	133
税引前四半期純利益	\$1,613	\$750	\$1,287	\$1,222

法人税の内訳は、以下のとおりです（単位：千米ドル）。

	9月30日終了の3か月		9月30日終了の9か月	
	2019年	2018年	2019年	2018年
米国	\$145	\$171	\$86	\$44
米国以外	11	15	27	28
法人税	\$156	\$186	\$113	\$72

2019年9月30日現在、未認識の税務上のベネフィットに対する負債や、不確実な税務上のポジションに関する未払利息及びペナルティに重要な増加はありませんでした。

2019年9月30日現在、当社は0.3百万米ドルの未認識の税務上のベネフィットがあり、そのうちの0.2百万米ドルは評価性引当金として繰延税金資産と相殺されました。もし、これらの金額が認識された場合は、0.1百万米ドルの税務上のベネフィットが当社の実効税率に影響を与えます。

当社の2014年から2018年までの事業年度における連邦税、州税及び海外子会社、事務所の税務申告は対象の複数の税務管轄区域において税務調査を受ける可能性があります。

注記11 . 後発事象

該当事項はありません。

2【その他】

- (1) 決算日後の状況
特記事項はありません。
- (2) 重要な訴訟事件等
該当事項はありません。

3【米国と日本における会計原則及び会計慣行の主要な相違】

日本会計基準と米国会計基準との主要な相違点は、2019年3月15日に提出した当社の有価証券報告書の「第6 経理の状況 4 米国と日本における会計原則及び会計慣行の主要な相違」に記載された相違点から重要な変更はありません。

第6【外国為替相場の推移】

米ドルと円の為替相場は日本国内において時事に関する事項を掲載する2紙以上の日刊新聞紙に当四半期会計期間中において掲載されているため省略します。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

第1【保証会社情報】

該当事項はありません。

第2【保証会社以外の会社の情報】

該当事項はありません。

第3【指数等の情報】

該当事項はありません。